

平成 30 年度 乳幼児教育振興特別事業
全幼研ワクワクプロジェクト（東京支部）報告書

「改めて遊びの質を考える」

提出日 平成31年 2月 20日
支部長名 嶺村 法子

- 実施日 平成 31 年 1 月 26 日 (土)
時間 10時00分～ 11時40分
- 共催 無
- 会場 中央区立明石幼稚園
- 参加者 参加者 24名 事務局 13名 (計 37 名)
- 講師 所属・職名 聖心女子大学 ・ 教授
名前 河邊 貴子

○ 内容

今回の「ワクワクプロジェクト」は、講師に、聖心女子大学 教授 河邊 貴子先生をお招きして 全幼研東京支部 第4回研修会として行った。

参加者が37名という少ない人数であったため、河邊先生の話の間近にお聞きすることの出来る貴重な学びの機会となった。また、河邊先生から、グループワークのご提案を頂き、少人数のよさを生かして、協議をしながら、参加者自身が自ら考え、話し合い、学び合うことの出来る研修会となった。

河邊先生には、都内公立こども園の取り組みを、写真を交えて紹介していただいた。それをもとに、「よく遊ぶとは、どういうことか」

「『担任の先生のここがよかった』と思うことはどこか」ということを出し合い、グループ協議を行った。



そして、その協議の様子を踏まえ、次のようなご指導を頂いた。

- ◆遊びは「場」「他者」「モノ」のネットワークが絡み合うものであり、遊びがうまくいかないときは、このどれかがうまくいっていない状況であること。
- ◆遊びは、知っていることやできることをどう使うかという「knowing」も大事であるが、学ぼうとする意欲やかかわろうとする意欲、耳を傾けようとする意欲、そして、そのためには注意深く見たり聞いたりする、やろうとする勇気等の「being」の要素も大切であること。
- ◆保育を展開していく上での思考のプロセスとして「①子どもの内的動機を読み取る」「②子どもの内的動機を読み取る」「③仮題に向けて必要な経験は何かを導き出す」「④③に基づき具体的な援助としての環境を構成する」ことが大切であること。
- ◆上記の思考のプロセスに沿った記録「①いつ、どこで、だれが何をしていたか。どのように遊んでいたか」「②そこで子どもたちが経験していたことは何か」「③さらに必要な経験は何か」「④環境の構成・再校正・援助の可能性」について、記録を通して考えていくことが大切であること。

そして、さらには、「0から生み出すこと」「見えないものを信じて作り出す」という遊びの営みの大切さ、そして、それを幼児教育の中で十分に経験させていくことの重要性を学んだ。

○まとめ（成果と課題）

参加者からは、「子どもたちがよく遊んでいる姿を見て、やらされているのではなく、子どもたちがやりたいと思えるような環境があり、それを受け止めてくれる保育者がいるからこそだと感じた」「全部援助するのではなく、子どもを信じて、見守ったり、ヒントを出したりしていきたい」「実践例がとても勉強になり、それを基に話し合いをする中で、学び合えたことが勉強になった」「明日からの保育に意欲的になった」「保育の楽しさを改めて感じた」等の感想が多数挙げられた。



今後も、参加者自身が積極的に学び合い、明日からの保育の糧になる研修会を計画、開催していきたい。